

第1章

岩国市の現状と都市づくりの課題

1. 岩国市の概況
2. 都市計画区域の概況
3. 市民意向
4. 社会・経済の潮流
5. 都市政策上の視点
6. 岩国市の特性と都市づくりの課題

第1章

岩国市の現状と都市づくりの課題

1 岩国市の概況

(1) 位置・地勢

本市は、山口県の東部に位置し、市域面積873.72km²と山口市に次いで県下第2位の広さを有しています(平成27年10月1日現在)。

市の北端には、標高が県内第1位の寂地山(標高1,337m)をはじめとする中国山地の山々が連なり、県下最大の二級河川錦川や、島田川、由宇川等の水系に沿って盆地や平野が形成されています。

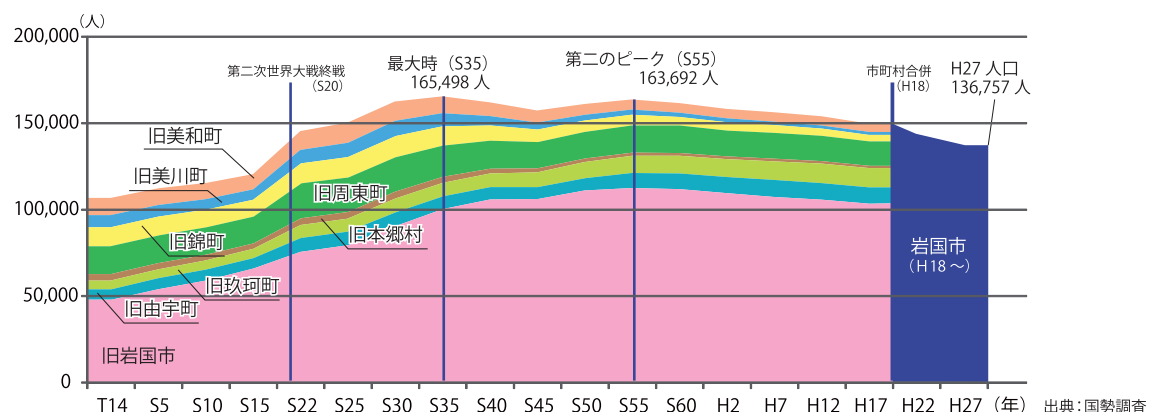


(2) 人口・年齢別人口構成

本市の人口は、136,757人(平成27年国勢調査)で、昭和55年以降減少が続いており、平成22年から平成27年までの5ヶ年では4.9%の減少となっています。

現在の岩国市の行政区域における人口のピークは昭和35年で、ピーク時に比べると3割近く減少しています。その一方で、岩国地域の人口が占める割合は、徐々に上昇し、平成27年には7割を占めている状況です。

■ 岩国市の人口の推移

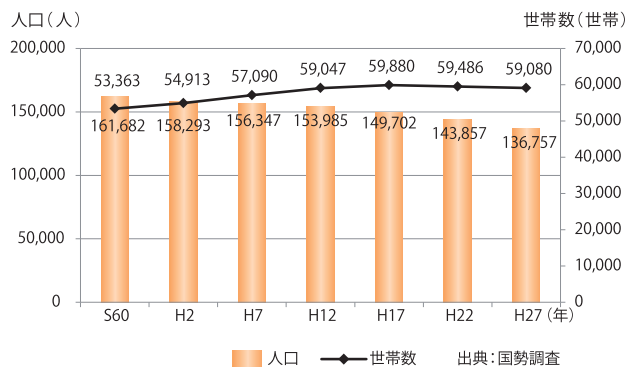


本市における世帯数は、人口が減少傾向にあるなか、平成17年の59,880世帯まで増加が続いたものの、平成22年からは減少に転じており、平成27年には59,080世帯となっています。

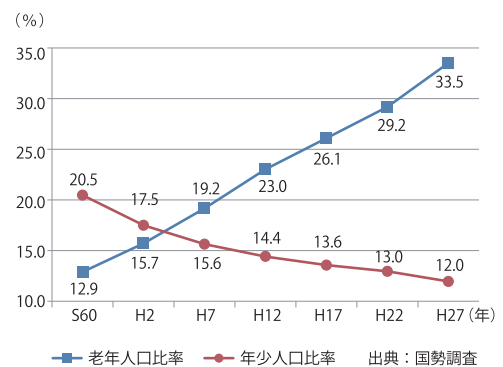
また、老年人口(65歳以上の人口)比率は増加が続いており、平成27年には33.5%となっています。一方で、年少人口(15歳未満の人口)比率は減少が続いており、平成27年には12.0%となっています。

平成7年に老年人口比率が年少人口比率を上回っており、その後も少子化・高齢化が進んでいる状況です。

■岩国市の人口及び世帯数の推移



■岩国市の高齢化・少子化の推移

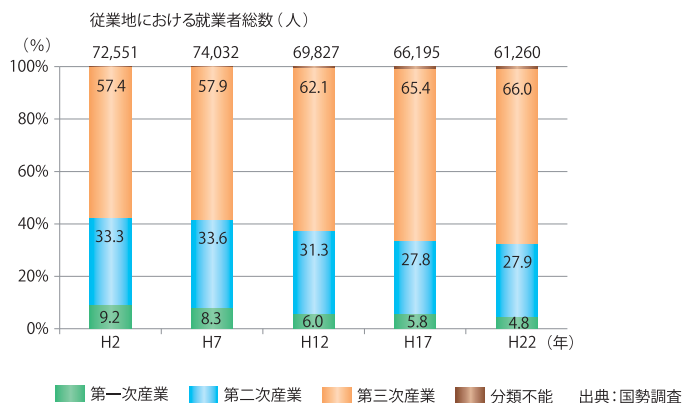


(3)産業

本市における就業人口は、平成7年の74,032人をピークに減少が続き、平成22年には61,260人となっています。産業別の構成比では、第一次産業4.8%、第二次産業27.9%、第三次産業66.0%となっています。

産業のサービス化・ソフト化の高まりや観光産業の振興等により、第三次産業就業者の構成比は平成22年には7割近くまで上がる一方、第一次産業と第二次産業の就業者は縮小傾向が続き、なかでも第一次産業は5%を下回る結果となっています。

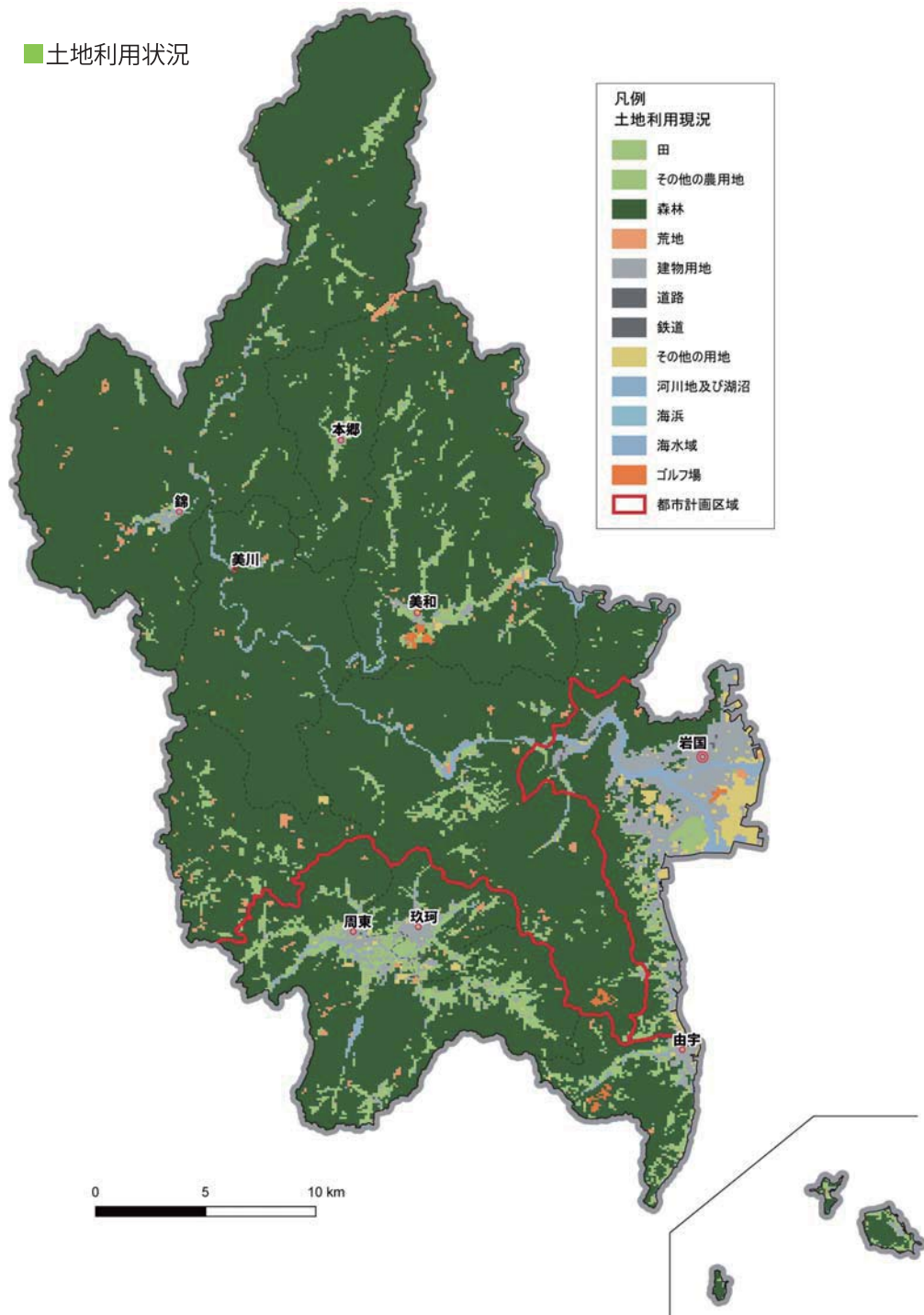
■産業別就業人口(従業地ベース)の推移



(4) 土地利用

本市における土地利用は、市域の大部分が森林であり、特に都市計画区域外ではそのほとんどが森林か田畑となっています。建物用地等からなる市街地は、都市計画区域内のうち、岩国地域から由宇地域の瀬戸内海沿いや、玖珂・周東地域の中央部に見られ、その周囲は森林に囲まれています。

■土地利用状況



出典：国土数値情報（平成21年データ）より作成